氏 名

生年月日

評価者

通所リハは、理学療法士か作業療法 士が記入の責任者として報告してくだ

)

課題分析情報

※既往歴、家族暦、服薬、生活習慣病の状況、自覚症状の有象

看護師等医療従事者によるリスクの評価を行う。既往歴、家族歴、服薬、生活習慣病の状況既往歴、家族歴、服薬、自覚症状の有無、脈拍測定、血圧測定などをとおして、特記すべき事項を記載する。

			理	学	 療	法部	価					
項目	開始前	(年	月 月	日)	終了後		(年	月	日)	
ニーズ	本人運動器の	 機能向上加	旧算を通	してどの	のようになり	けたいか聞	き取り記述	載する。				
ー ス												
			痛	j J	タ の	評	価					
痛 み												
の	その痛みがい	 つからある	のか、医	師の診	察や治療	などを受け	ているの	かどうか	を確認	する。 i	部位、	痛ん
既 往												
歴												
痛み	<u>(S&S、P1・P</u> 運動を始めて7			トス士で	の時間/T1		<u>P1・P2、</u> 軍動がで			<u>味即(1</u>	[2] (字	ミュカ
の	緩和させる努力	カをしてから	らもとの	状態に原	冥るまでの	時間(T3)な	どを聴取	ひ、痛み	+の重症	度を判	断する	る。さ
質 的	│ らに、痛みに基 の結果を記載 [・]		前後の関	節可動	域の変化	で、運動の	種類•負	荷量が通	6当かど	うか評	価する	る。そ
評	のが一来で記載	9 000										
<u>価</u>												
	白紙に100mm	の線を引き	そのた	は会と	一 ノスハーハロ	4h 7 0 1	たっりま	で相俟っ	バキス島コ	立の店	みり!	ナーレコ
) - ru + + + 1 × 7											
VAS	に、現在感じるから何ミリメート	る痛みを線る	を引いて	示す方	法である。	対象者に	泉を引かる	せた後、	測定者為	が定規	を用い	て、
VAS	に、現在感じる から何ミリメート などがあるがV	る痛みを線る トルの所に約	を引いて 線を引い	示す方 たのか	法である。 を記録する	対象者になる。その他に	泉を引かっ こ痛みを顔	せた後、 質の表情	測定者がで表す。	が定規 、フェイ	を用い ノススク	て、ブール
VAS	から何ミリメート などがあるがV	る痛みを線る トルの所に約	を引いて 線を引い	示す方 たのか	法である。 を記録する	対象者に る。その他 l 、後に分析	泉を引かっ こ痛みを しやすい	せた後、 質の表情	測定者がで表す。	が定規 、フェイ	を用い ノススク	て、ア
	から何ミリメート などがあるがV <mark>痛みの部位</mark>	S痛みを線を トルの所に (AS の方が	を引いて 線を引い 数値とし 	示す方 たのか て示す	法である。 を記録する ことができ	対象者に 5。その他は 、後に分析 痛みの音	線を引から に痛みを しやすい 3位	せた後、 質の表情 。このVA	測定者がで表す。	が定規 、フェイ	を用い ノススク	て、ブール
痛	から何ミリメート などがあるがV	S痛みを線を トルの所に (AS の方が (AS の方が (の) 所を記載す	を引いて 線を引い 数値とし 一 る。簡単	示す方 たのか て示す 単な人体	法である。 を記録する ことができ 、 で図を描きり	対象者に対し、その他は、後に分析痛みの音	線を引かっ こ痛みを しやすい な な な を記載す	せた後、 質の表情 。このVA	測定者がで表す。	が定規 、フェイ	を用い ノススク	て、ブール
痛みの	から何ミリメート などがあるがV <u>痛みの部位</u> 痛みのある場 今ある痛みか	が (AS の方が (AS のうが (AS o) (AS o	を引いて 線を引い 数値とし つ。簡単 間の痛。	示す方かたのかって示す	法である。 を記録する ことができ ことができ な図を描きり つかるように	対象者に対象を表して、後に分析 痛みの部 富みの部 を記入して	泉を引から こ痛みを いしやすい な な を記載す ください。	せた後、 質の表情 。このVA る。	測定者が fで表す。 AS は膝	が定規、フェイ・腰なる	を用い (ススク ビ痛む	マール部位
痛みの部	から何ミリメート などがあるがV 痛みの部位 痛みのある場	が (AS の方が (AS のうが (AS の方が (AS o) (AS o)	を引いて 線を引いて 数値とし 簡の 簡の に で 質	示す方かたのかって示す	法である。 を記録する ことができ ことができ な図を描きり つかるように	対象者に対象を表して、後に分析 痛みの部 富みの部 を記入して	泉を引から こ痛みを いしやすい な な を記載す ください。	せた後、 質の表情 。このVA る。	測定者が fで表す。 AS は膝	が定規、フェイ・腰なる	を用い (ススク ビ痛む	マール部位
痛みの	から何ミリメートなどがあるがV 痛みの部位 痛みのある場合のある痛みかか。 身体機能や疼イメントを評価 ※ アライメント	所を記載す 「AS の原因 「本記載」 「本記載」 「本記載」 「本記載」 「本記載」 「ないまします。 「ないまします。」 「ないまします。」 「ないまします。」 「ないまします。」 「ないまします。」 「ないまする。 「ないまする。 「ないまる。 「ななる。 「なな。 「ななる。 「ななる。 「ななる。 「ななる。 「なる。 「なな。 「ななる。 「なる。 「なな。 「なな。 「なな。 「なな。 「なな。 「なな。	を引いて 線を引いて 一る。の 間 一理解 を もと し もと し を 引い で り に り に り に り に り り り り り り り り り り り	示す方かって示す	法である。 を記録する ことができ 図を描きり かるように にアライメン 軸のあり方	対象者に対象者に対象をできた。その他に、後に分析所の部位では、はいいの評価できた。	線を引かれ に高みを移 が必要に 現である。	せた後、 類の表情 い。このVA つる。 なる場合	測定者が AS は膝 AS な膝	が定規 、フェイ・腰な ・ 腰な 。 静的	を用い イススク ビ痛む ・動的	・で、えでール部位
痛みの部位	から何ミリメートなどがあるがV 痛みの部位 痛みのある場合 今ある痛みか、 身体機能や疼 イメントを評し、 四肢の基本軸	「痛みを線を (AS の 所表近 所表近 所記数 「病の記載も にくわえ、	を引いている。 線を値と ・る。の ・でである。 ・ででする。 ・でででする。 ・でででする。 ・でででででででする。 ・でででする。 ・でででする。 ・でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	示す方かって示すしな人体をみか、たるための基本で	法である。 を記録する ことができ 図を描きり かるように にアライメン 軸のあり方 下肢にいた	対象者に対象者に対象者に対象をできた。その他は、後に分析の部位では、あるの部位では、からの評価を示す表記を表する基本軸に対象を表する。	線を引から こ痛みを されやすい なを記載い。 なださい。 でいる。 (重心線)	せた後、 類の表情 か。このV/ つる。 なる場合 を中心と	測定者が表す。 AS は膝 合が多い	が定規 、フェイ・腰な ・静的 ・静的	を用いて ビススイン 動 位置	で、ためて、ためで、ためで、ためで、ためで、ためでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ
痛みの部位 身体ア	から何ミリメートなどがあるがV 痛みの部位 痛みのある場合のある痛みかか。 身体機能や疼イメントを評価 ※ アライメント	「痛みを線を (AS の) (AS の) (AS の) (で) (で) (で) (で) (で) (で) (で) (で) (で) (で	を引いる は な は な で の の の の の の の の の の の の の	示 京 京 た た な か 、 る の 体 え の 体 え の は の は の の は の は の は の は の は の は の は の は の は の は の の は の の は の に の は の は の は の は の に の は の は の は の は の は の に の は の る の は の は の は の は の は の は の は の は の は の は の に の は の に の に の に の に の に の に の に の に の に る の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に る に の に の に る 。 る 。 に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る 。 る 。 る に る 。 。 る 。 る 。 る 。 。 。 る 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	法である。 を記録する ことができ 図を描きり かるように にアライメン 軸のあり方 下肢にいた	対象者に対象者に対象者に対象をできた。その他は、後に分析の部位では、あるの部位では、からの評価を示す表記を表する基本軸に対象を表する。	線を引から こ痛みを されやすい なを記載い。 なださい。 でいる。 (重心線)	せた後、 類の表情 か。このV/ つる。 なる場合 を中心と	測定者が表す。 AS は膝 合が多い	が定規 、フェイ・腰な ・静的 ・静的	を用いて ビススイン 動 位置	アール部位
痛みの部位 身体	から何ミリメートなどがあるがV 痛みの部位 痛みのある場。今ある痛みかれる場合が はいかった かった はいかった かった できる かった はいかった はいかっかった はいかった はいれい はいない はいかった はいれい はいれい はいれい はいれい はいかった はいれい はいれい はいれい はいれい はいれい はいれい はいれい はいれ	痛みを 解みを 所大 (AS の (AS も (AS の (AS も (AS も	を引を値 。の 理。 と部盤 ででいい ででいる でである。 でである。 ででる。 でである。 でである。 ででる。 でである。 ででる。 でである。 でででる。 ででででる。 ででる。 ででる。 ででる。 ででる。 ででる。 ででる。 ででる。 ででる。 ででる。 ででる。 ででる。 ででる。 ででる。	示たの示しなか、るの基幹の体をある。	法である。 を記録でき ことができ のかるように にアライメン 軸の位置関係	対象者に対象者に対象者に対象をできます。その分が、後に分が、高いのでは、一下のでは、一下のでは、一下では、一下では、一下では、一下では、一下では、一下では、一下では、一下	泉を引から こしなさい 位を記むい をごといめでいる。 は、 でいる。 は、 でいる。	せた後、 類のVA 「る。 「る。 を評価する。	測定者が fで表す。 AS は膝 が多い cした、各勢	が 定規 ・腰 ・静 的 節変 を が の 変 が の の の の の の の の の の の の の	をパスない。動の位は、	で、 アール で 部位 アラ 係的
痛みの部位 身体アラ	から何ミリメートなどがあるがV 痛みの部位 痛みのある かっている かった はい アラの 基頭 はい まかい 疲労 はい 疲労 時に ない かった はい かった	痛みを 解みを 所大 (AS の (AS も (AS の (AS も (AS も	を引を値 。の 理。 と部盤 ででいい ででいる でである。 でである。 ででる。 でである。 でである。 ででる。 でである。 ででる。 でである。 でででる。 ででででる。 ででる。 ででる。 ででる。 ででる。 ででる。 ででる。 ででる。 ででる。 ででる。 ででる。 ででる。 ででる。 ででる。	示たの示 はかいた なかいた 本を なかいた 本を はかいた は幹足 はたがいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた はいた	法である。 を記録でき ことができ のかるように にアライメン 軸の位置関係	対象者に対象者に対象者に対象者に対象をの分析をはない。後に分析の部では、一本ののでは、一本ののでは、一本ののでは、一本ののでは、一本ののでは、一本ののでは、一本ののでは、一本ののでは、一本ののでは、一本ののでは、一本ののでは、一本ののでは、一本ののでは、一本ののでは、一本ののでは、一本の	泉を引から こしなさい 位を記むい をごといめでいる。 は、 でいる。 は、 でいる。	せた後、 類のVA 「る。 「る。 を評価する。	測定者が fで表す。 AS は膝 が多い cした、各勢	が 定規 ・腰 ・静 的 節変 を が の 変 が の の の の の の の の の の の の の	をパスない。動の位は、	で、 ⁷ で
痛みの部位 身体アライ	から何ミリメートなどがあるがく 痛みの部位 るみのの痛みのの痛みを はいましたが といっています からいます からい ない	「AS 所表」 「AS 所表」 「AS 「「AS 」 「AS	を 引 い 引 い 引 い 引 い 引 に の の の の の の の の の の の の の	示た 示た なか、 なか、 なか、 なか、 なか、 なか、 なか、 なか、	法である。 を記ができ ことができ 図を描ように にアライメン 軸肢位 のアライス 常生活活	対象者に対象者に対象者に対象者の分ができる。後に一番のののでは、一番ののでは、一番ののでは、一番ののでは、一番のでは、一番のでは、一番のでは、一番のでは、一番のでは、一番のでは、一番のでは、一番のでは、一番のでは、一番のでは、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番	泉を引から ななださい を記い、要ない でで記い、要ない。 ででいる。 のでいる。 のでいる。	はた後、 類の この V A A A A A A A A A A A A A A A A A A	測定者が AS は膝 が多い た、姿 をによる	が定規では、・関のの脚やの脚や	を 大 に 大 に い か は は は は は は は は は は は は は	て、 ア 一 ア ラ 係的 の
痛みの部位 身体アライ ADL	から何ミリメートなどがあるがく 痛みの部位 るみのの痛みのの痛が やかっている はん かい ない から はい	「AS 所表」 「AS 所表」 「AS 「「AS 」 「AS	を 引 い 引 い 引 い 引 い 引 に の の の の の の の の の の の の の	示た 示た なか、 なか、 なか、 なか、 なか、 なか、 なか、 なか、	法である。 を記ができ ことができ 図を描ように にアライメン 軸肢位 のアライス 常生活活	対象者に対象者に対象者に対象者の分ができる。後に一番のののでは、一番ののでは、一番ののでは、一番ののでは、一番のでは、一番のでは、一番のでは、一番のでは、一番のでは、一番のでは、一番のでは、一番のでは、一番のでは、一番のでは、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番	泉を引から ななださい を記い、要ない でで記い、要ない。 ででいる。 のでいる。 のでいる。	はた後、 類の この V A A A A A A A A A A A A A A A A A A	測定者が AS は膝 が多い た、姿 をによる	が定規では、・関のの脚やの脚や	を 大 に 大 に い か は は は は は は は は は は は は は	て、 ア 一 ア ラ 係的 の
痛みの部位 身体アラ	から何ミリメートなどがあるがく 痛みの部位 るみのの痛みのの痛みを はいましたが といっています からいます からい ない	「AS 所表」 「AS 所表」 「AS 「「AS 」 「AS	を 引 い 引 い 引 い 引 い 引 に の の の の の の の の の の の の の	示たて はかいる の体、。 大かいた 基幹足 体 に に に に に に に に に に に に に	法である。 を記ができ ことができ 図を描ように にアライメン 軸肢位 のアライス 常生活活	対象をに対する。後の一角に対する。後の一角に対する。本ののでは、一の一方をあるのでは、一角に対する。本ののでは、一角に対する。本ののでは、一角に対する。本ののでは、一角に対する。本ののでは、一角に対する。	泉を引から ななださい を記い、要ない でで記い、要ない。 ででいる。 のでいる。 のでいる。	はた後、 類の この V A A A A A A A A A A A A A A A A A A	測定者が AS は膝 が多い た、姿 をによる	が定規では、・関のの脚やの脚や	を 大 に 大 に い か は は は は は は は は は は は は は	て、 ア 一 ア ラ 係的 の
痛みの部位 身体アライ ADL IADL	から何ミリメートなどがあるがく 痛みの部位 るみのの痛みのの痛みを はいましたが といっています からいます からい ない	「	を 泉数 る間 でるも 頭骨評代 でが でいいし の の の の の の の の の の の の の	示たて はかいる の体、。 大いた 基幹足 体 に に に に に に に に に に に に に	法で録っている。 を記ができる。 でをるようにいる。 でをある。 でをある。 でをある。 でをある。 でのでをある。 でできる。 でのできる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。	対象をは、海の人のでは、一下である。後の一角では、一下であるのでは、一下であるのでは、一下である。一下である。一下である。一下である。一下である。一下である。一下である。一下である。一下である。一下である。	線を引から なだが、現重姿 なだが、現重姿 を記さいが、現重姿 を記さいが、現重姿 を記さいが、現重姿 を記さいが、現重姿 を記さいが、現重姿 を記さいが、現重姿 をいずが、現重姿 をいずが、現重姿が、ためでは、ためでは、ためでは、ためでは、ためでは、ためでは、ためでは、ためでは	せた表 (Manager Language Langua	測定者が AS は MS した、 会 を に よ る に る る に る る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら	が 、 ・ 関の 脚 で	を / ス 痛	で、アール位アラー係的の動作を
痛みの部位 身体アライ ADL	からがるがく	「 痛ル/AS 所、 「痛しとに肩のや を にががれている。 で 記数 「原載もえ柱況湾 歩い で がれている。 で がれている。 で の記、わ脊状側 いてでいる。 で ので ので ので ので ので ので ので ので ので	を 泉数 る間 で るの の の の の の の の の の の の の の	示たて はかる の体、。た 降で に はかいた 基幹足 体 に に に に に に に に に に に に に	法で録った。 をことで図かのアのに置ける。 であるすきである。 ではまができる。 であるすきできる。 であるであるである。 であるであるである。 であるであるである。 であるであるである。 であるであるである。 であるであるである。 であるであるである。 であるであるである。 であるであるである。 であるであるである。 であるであるであるである。 であるであるであるである。 であるであるであるである。 であるであるであるである。 であるであるであるであるである。 であるであるであるであるである。 であるであるであるであるであるである。 であるであるであるであるであるである。 であるであるであるであるであるである。 であるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるで	対象を後 痛み入の 示基の ト 能どの 事がし 評 す本り 常 力 の 項でる 事上でる 事上でる する ままる 異 力 の する できる ままる 異 力 の する できる かん	線を引から なだが 現重姿 なだが で心勢 で心勢 を が でいる。 でい。 でいる。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	せた表 (Manager Language Langua	測定者が AS は MS した、 会 を に よ る に る る に る る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら	が 、 ・ 関の 脚 で	を / ス 痛	て 一部 「ア 関静 ど 動作 で 動作 に に に に に に に に に に に に に

T1: 運動を始めてから痛みが起こるまでの時間、T2:痛みの出る動作を続けられる時間

T3: 痛みが緩和するような努力を始めてから痛みが消失するまでの時間